

議会 - 第3回定例会 -

9月13日に招集された第3回定例会は、19日、全日程を終えて閉会しました。
今定例会では、小竹町長、杉本教育長の行政報告のほか、今年度の補正予算などが審議されました。小竹町長と杉本教育長の行政報告についてお知らせします。

町長行政報告

平成25年8月18日及び9月16日の豪雨による被災状況について

8月18日の豪雨災害について、報告申し上げます。日高地方は、低気圧からのびる前線の影響により、断続的に激しい雨に見舞われ、日高中・西部の道道では、土砂崩れの可能性から、同日夜にかけ一部通行止めとなりました。

新冠町におきましては、新和で、降りはじめからの総雨量が117mmを記録し、町内の道路、河川、明渠排水

14ヶ所に被災を受け、これら総被害額は、410万円となっております。
これら被害の復旧につきましては、次期出水時に増破などが懸念されることから、8月19日専決処分を行い復旧しております。



小規模土砂流出が発生した町道

9月16日の豪雨災害について、報告申し上げます。大型の台風18号は、愛知県豊橋市付近に上陸し、関東甲信から東北を縦断し太平洋に抜け、死者3名、行方不明5名と言う甚大な被害をもたらしました。

当町におきましては、警報の発令はありませんでしたが、岩清水では、降りはじめからの総雨量が140mmを記録し、若園ほか4地区で停電したほか、河川、明渠排水7ヶ所に被災を受けたのをはじめ、町道の倒木3ヶ所を処理しております。

これら被害の内、早急に復旧しなければならぬ8ヶ所、総額185万9千円につきましては、既定予算で対応しますが、採草地にかかる

2ヶ所の明渠排水につきましては、冬期間の工事となりますことから、第4回定例会で補正予算を計上したいと考えております。

高規格幹線道路「日高自動車道」建設工事から発生する残土埋め立てに係る運搬作業道について

「豊かな海と森と優駿の里」から道央圏へ、更に道東圏とを結ぶ道として、北海道の広域分散型社会を支える高速道路ネットワーク形成の一翼となります。「日高自動車道」の整備が進められており、「門別厚賀道路」は、平成29年度供用開始に向け工事が進められております。

このような中、新冠インターチェンジを有する「厚賀静内道路」の工事から生ずる残土約75万㎡を、パークゴルフ場奥の沢に埋立て造成し、土地の有効活用を図るため、「厚賀静内道路」工事に先駆け、埋立て造成地に通じる残土運搬用作業道の整備のため、本年7月1日付けで、当該町有地の使用貸借契約を交わし、その後測量、立木調査、表土のすき取りなどを行い、9月12日より道路改良工事を実施し、12月完成を目指しております。

この作業道は、日高食肉センターが整備した道路の終点から、新ひだか町側に面した町有地を迂回し、パークゴルフ場奥に通じるルートを作成するもので、道路幅員4m、延長1.3kmの作業道を、平成26年度より「厚賀静内

は、21号で49万7215円、24号は26万5280円となりました。

開閉器の不具合が生じた箇所の修理を開始し、午後8時5分頃に修理作業を終了し、午後9時30分頃に終了し、その後、各戸に異常のないことを確認しております。

また、公営住宅において、同様な引込開閉器を設置している箇所は、当該団地のほか、グリーン団地、東栄団地、ゆとり野団地であることから、調査を実施し、その結果、問題ないことを確認しておりますが、今後は、定期的に点検を実施して行く考えでございます。

被災した家電製品などは、日常生活に不可欠なものであることから、早急に対応することが、必要であると判断し、被災者毎に、損害賠償の和解及び損害賠償の額の決定、並びに、関連補正予算を9月3日付けで専決処分をさせていただきます。

公営住宅の維持管理につきまして、さらなる住居環境の向上及び付帯設備の安全確認を進めていく考えでございますので、ご理解をお願いいたします。

農作物の生育状況と販売状況について

町内の主な農作物の生育状況からご報告いたします。

町の基幹作物であります水稲ですが、北海道農政事務所による8月15日現在の道内の作物状況は「やや良」が

道路」の工事完成が見込まれる約10年間残土の搬入埋立てを予定しており、埋立て完了後は、この作業道を町が更に整備し、新冠温泉と西泊津をつなぐ環状線として活用したく考えておりますので、これら工事に際し、地域にご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

浦河赤十字病院精神神経科の廃止方針について

浦河赤十字病院精神神経科の廃止方針に関するこれまでの経緯について、ご報告いたします。

既に、新聞報道などによりご承知とは存じますが、浦河赤十字病院が、本年度末をもって精神神経科を廃止する方針を表明しております。

当町は8月8日に、地元浦河町から情報提供をいただき、その後、管内町長会としても、地域医療に与える影響が大きいとの判断から、対応について集中的に協議することを決めておりました。

8月20日の新聞報道のあと、26日には、病院長が来庁され、廃止方針に至った経緯などについて説明を受けたところでございます。

当町としては、「日赤病院は、管内の中核病院としての役割があり、特に、各町から費用の助成を受けて改築を実施している中での、計画変更は、管内的にも理解を得づらい内容であること」『対応については、管内町長会で

見込まれております。これは、田植え期以降の好天により分けつが促進されたものの、分けつ発生期間が短縮されたことにより、穂数やもみ数が「平年並み」と見込まれ、登熟は7月中旬以降の高温によって、もみの稔実が平年を上回り、「やや良」と見込まれるためであります。

日高管内におきましては、「穂数」、「1穂当たりのもみ数」、「全もみ数」とも「平年並み」、「登熟」は「やや良」と見込まれており、作物も「平年並み」と見込まれております。

当町においては、日高農業改良普及センターが毎月実施しております9月1日現在の生育状況調査では、登熟が順調に進んでいることから刈り取りは早まる見込みにあります。不稔率は5%程度となり、作況は平年並みとの報告を受けております。

また、牧草の状況ですが、同普及センターによりますと、本年は土壤凍結が少なく萌芽期（ほうがき）が早かったものの、4月中旬以降の低温により生育は遅れましたが、6月15日以降は生育も回復し、1番草は平年並みでありました。2番草も順調に生育しましたが、収穫期に降雨が続く、刈り取りが遅れたため、良質な飼料の収穫は見込まれていません。

また、飼料用とうもろこしは、春先の低温、多雨による起耕作業の遅れにより播種作業が遅れておりましたが、その後の気温上昇により生育は順調に回復し、豊作でありました昨年を超え

協議すること』についてお伝えいたしました。

管内町長会は、8月29日に第1回目の協議を行い、各町長が聞き取った内容や、資料による確認・協議を行いました。口頭での説明では納得できるものではないため、改めて病院関係者から説明を受けた上で、取り扱いを協議することとし、9月6日に2回目の協議を開催いたしました。

会議では、日本赤十字社北海道支部・浦河日赤病院の関係者から、経過説明を受け、意見交換を行いました。日赤側からは『近年の患者数減少に伴い、入院病床の稼働率が低く、精神神経科の収支バランスが悪化し、改善の見込みがたないこと』加えて、『精神神経科医師が退職し、浦河町でクリニックを開院される見込みであること』など廃止方針に至った経緯と、廃止後の入院患者の転院の対応などについて説明がありました。

意見交換を受け、町長会としては、各町が助成をして進めている病院改築事業の、完了前における診療科廃止表明は到底理解できないことを前提に、『日赤病院は、管内の地域センター病院の位置づけがあり、精神神経科の廃止は地域住民を不安にさせるほか、地域の医療体制にも大きな影響が出る』との判断から、精神神経科存続を求め緊急の要請活動を行うことが決定されました。

要請活動は、日高町村会と日高総合開発期成会が合同で、日本赤十字社本